P-33

社会福祉学部教育におけるディプロマ・ポリシーの達成度に関する調査報告～４年生と２年生における自己認識の変化の比較～

新潟医療福祉大学社会福祉学科・圓山里子, 横山豊治,
伊東正裕, 豊田保, 星野惠美子,
河野聖夫, 近藤あゆみ, 寺田貴美代

【背景】

中央教育審議会大学分科会制度・教育部会が 2008 年３月に出した「学士課程教育の構築に向けて（審議のまとめ）」は，アドミッション・ポリシー，カリキュラム・ポリシー，ディプロマ・ポリシーを明確にし，それぞれを連携させることの重要性を明示した．本学においても，2009 年度にディプロマ・ポリシー（以下，ＤＰとする）を策定している．

また，2007 年の社会福祉士及び介護福祉士法の改正では，社会福祉士養成課程も改定され，実習・演習科目が強化された新カリキュラムが 2009 年度から導入されている．

このように，近年，大学教育や社会福祉学部教育に対する期待が高まっているが，本学部において，学部教育を受けることによって学生にどのような変化が生じているかは，教育活動や学生との交流を通して断片的，感覚的に知ることがあっても，全体の傾向を量的に把握したことがなかった．

先行研究においては，特定のプログラムに関する教育効果の検討 [1]や，キャンパスライフ全般に注目した研究 [2]はあるが，社会福祉の学部教育に焦点をあてて論じたものは見当たらなかった．

そこで，社会福祉学部教育を受けることでＤＰの達成度がどのように変化するのか，またそれらの変化が主に学生生活のどのような活動によってもたらされたと認識されているのかを明らかにすることを目的に，調査を実施した．

【方法】

調査方法：自記式の質問紙調査

対象者と調査時期：①社会福祉学科４年生，2011 年２月９日
②社会福祉学科２年生，2011 年５月 12 日

内容：ＤＰを細分化した 13 項目の設問について，「入学当時の自分と比べてどのような面で変化があったと思うか」と問い，各々の設問に対して，「思わない」「どちらかといえば思わない」「どちらかといえば思う」「思う」の４件法で回答を求めた．〈自己認識の変化〉

さらに，変化があったと思う項目については，それに最も大きく関係したものを「講義・演習」等の９つの選択肢から一つを選択してもらった．〈自己認識の変化に影響を及ぼす要因〉

その他，性別等の基本属性も把握した．

なお，調査は，新潟医療福祉大学倫理委員会の承認を得て実施された（承認 No. 17222-101214）．

【結果】

有効回答数：①４年生 113 人（有効回答率 79.6%），
②２年生 123 人（有効回答率 84.8%）

１．自己認識の変化について

ＤＰに関する 13 項目に対する回答を「思う」と「それ以外」に分けて再集計し，その割合について４年生と２年生の群間比較を行った結果，９項目について，４年生の「思う」と回答した者の割合は，２年生の割合と比較して，有意に高いことが示された．そのうち両群における「思う」と回答した者の割合の差が最も大きかったのは「連携」に関する項目であり，２年生では「思う」と回答した者の割合が 31.7%にすぎないのに対し，４年生では 61.4%であり，34.7 ポイントの差が認められた（χ^2=28.340，p=0.000）．差が最も小さかった「判断」に関する項目についても，２年生では 9.8%のみが「思う」と回答したのに対し，４年生では 29.2%であり，19.4 ポイントの差が認められた（χ^2=14.434，p=0.000）．

２．自己認識の変化に影響を及ぼす要因について

２年生では「コミュニケーション」に関して「学外実習」が最も多く挙げられたものの(28.0%)，それ以外の全ての項目で「講義・演習」が最も多かった．

これに対して４年生が最も多く挙げた要因は項目毎に異なり，次のような４つの群に分かれた．

①講義・演習：「教養」「専門知識」「思考」「判断」「動向への関心」「社会問題への関心」
②学外実習：「人権・人格の尊重」「多様な理解」「問題解決能力」「コミュニケーション」「福祉で働く意欲」
③ゼミ活動・教員との交流：「連携」
④ボランティア・地域活動：「社会貢献意欲」

【考察】

１．社会福祉学部のＤＰは４年生では概ね達成されていることが示唆された．学年による有意差が生じなかった「動向への関心」「社会問題への関心」については，２年生の調査時期が東日本大震災後であった影響も考えられる．

２．ＤＰ達成に影響を及ぼす要因は，項目によって異なっている．学年進行に伴いカリキュラムが「学外実習」や「ゼミ活動等」と多彩になり，その教育効果が現れていると考えられる．

【結論】

社会福祉学部教育におけるＤＰの達成度には，学年による差異が認められた．より一層の学部教育の充実のためには，「講義・演習」や「学外実習」等の特色の違いをより認識したうえで，社会福祉学部教育を実施することが求められる．

【文献】

1) 薮内さつき, 竹内祐子, 吉岡 昌美, 日野出大輔：人間力の向上をめざした徳島大学歯学部での初年次教育カリキュラムの教育効果, 日本社会福祉教育学会第５回大会, 2009.
2) 武内清編：大学の「教育力」育成に関する実証的研究－学生のキャンパスライフからの考察－, 平成 19～21 年度文部科学省科学研究費補助金（基盤研究（B））研究成果・最終報告書, 2010.